

国債先物 (中心限月)

2010.3.4

<日足から想定される今後1週間程度の相場>

日足は回帰値(緑色の実線)を僅かに下回る位置で極短い上影陰線となっています。回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますから、今後続落となって下値圏(水色の帯)へ向かう可能性も、反騰に転じて高値圏(桃色の帯)へ向かう可能性も、五分五分と考えた方が良いでしょう

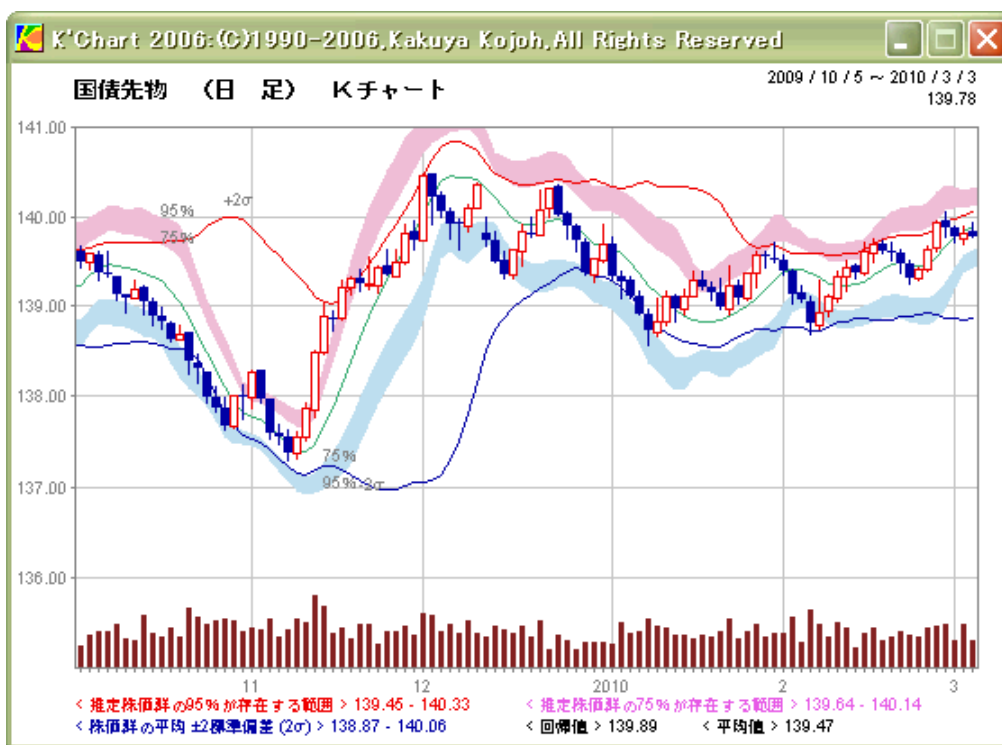
<週足から想定される今後1カ月程度の相場>

週足は回帰値を跨いで極短い陰線となっています。回帰値を跨いだ後は転換しやすいタイミングとなりますが、2月第1週に回帰値から下放れたかに見えたものの直ぐに回帰値に戻ったことに加えて、上昇しつつある回帰値に連続して絡んでいることから、今後反落に転じて下値圏へ向かう可能性よりも、続伸となって高値圏へ向かう可能性の方が高いのかもしれない。

<月足から想定される今後3カ月程度の相場>

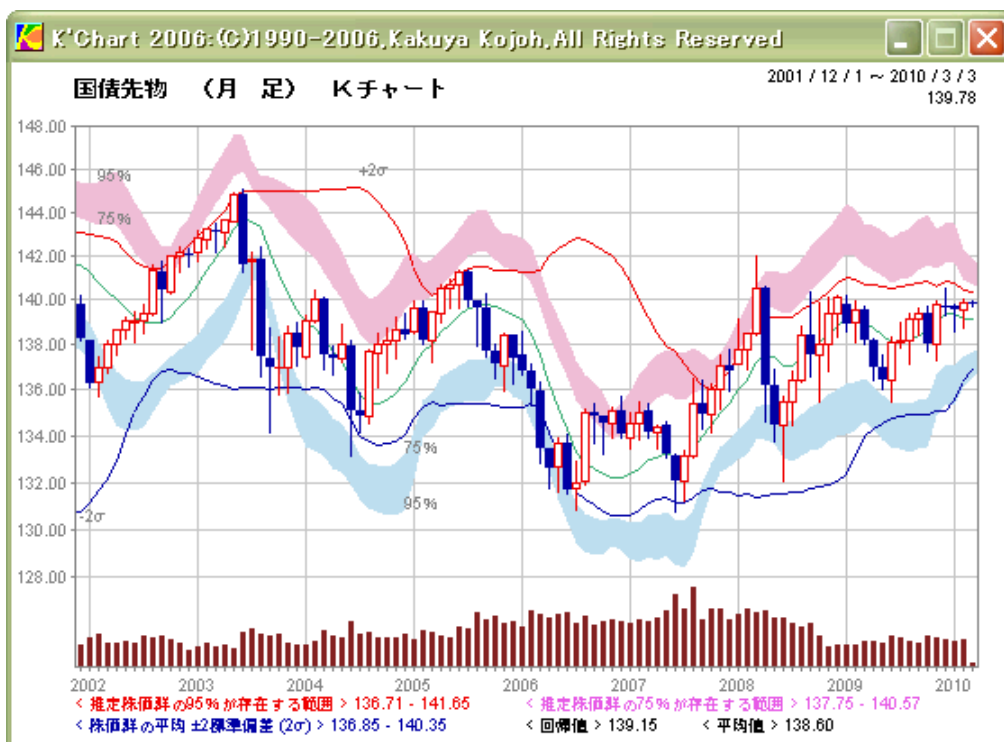
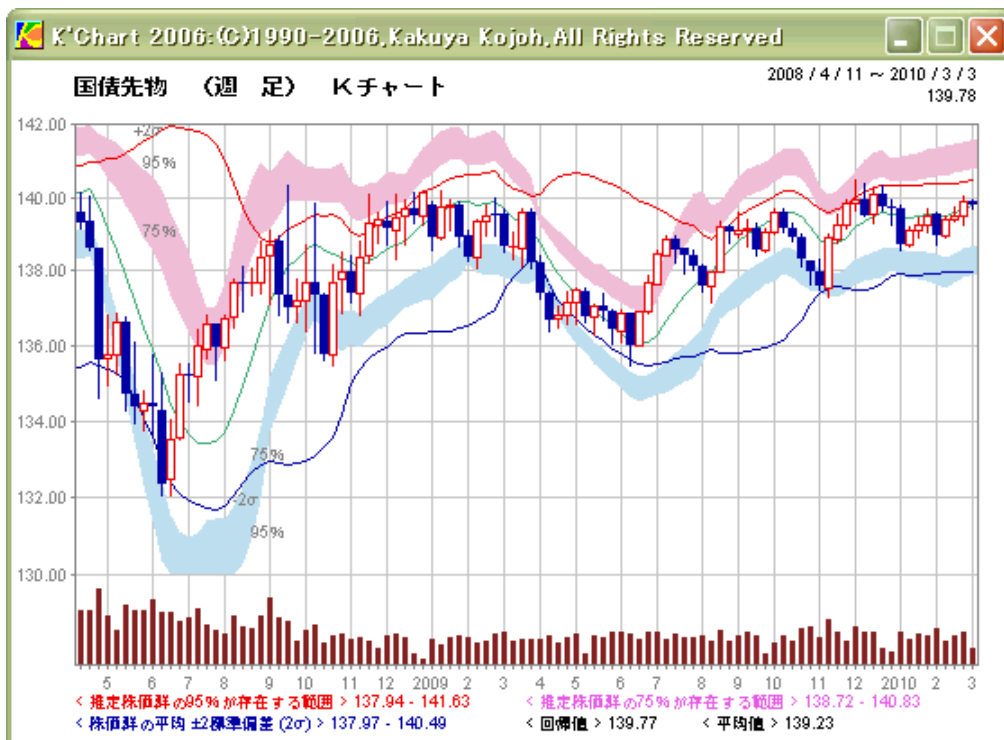
月足は回帰値と高値圏の間で極短い同値足(始値と終値がほぼ同値の足形)となっています。当面は高値圏へ向かって上昇する展開が想定されますが、高値圏の手前には上値抵抗線の1つである+2シグマ(赤色の実線)があり、これを跨いだ所で反落に転じる可能性があります。

国内景気は底を打ったとはいふものの依然として低空飛行が続いており、消費者物価指数はデフレ気味ですから、当面長期金利が上昇する環境にはありません。その意味では、債券価格は崩れにくい環境にあり、株式市場が一服する場面では繰り返し上昇することになりそうです。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようにお願いします。



この資料は、テクニカル分析に基づく執筆者の作成日における見解で、有価証券等の売買や特定の投資戦略への参加の勧誘を意図したものではありません。当社が信頼できると判断した公開の情報源から得た情報に基づいて作成されていますが、必ずしも当社の意見を反映したものではありません。その正確性や完全性を保証するものではありませんし、事前事後の通告なしに変更される場合があります。

この資料にある有価証券等の価格や価値は変動する可能性があり、そのリスクや、外貨建ての場合は、為替相場の変動リスクもお客様が負うこととなります。さらに、過去の実績は、必ずしも将来の成果を保証するものではありません。資料の内容がすべてのお客様に適合的であるとは限りませんし、お客様は、ご自身の状況や投資目的に鑑み、ご自身で投資に関する決定をしていただく必要があります。また、売買取引に際しては国内株式対面取引の場合、最大で約定代金の1.05%(税込)もしくは最低2,625円(税込)の手数料が必要となります。なお、この資料のすべての部分について、目的や方法を問わず、無断での複製、転載、転送などを行わないようお願いします。